

会派視察・研修報告書

会派名 政友会

代表者名 吉田 企貴

1 日 に ち	令和 7年 7月 24日 (木)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	兵庫県 丹波篠山市北新町 97 (一社) 丹波篠山市観光協会
3 参 加 者	吉田企貴、加藤智章
4 調査・研修の テーマ	【六古窯の一つ丹波焼を核とした 古民家活用や陶泊等観光誘客の取り組み】について
5 主な内容	① 丹波篠山市における丹波焼の位置づけ ② 観光誘客の状況 ③ 自治体施策との連携状況 ④ 古民家活用の実態

6 所感、提言事項、
課題等

【加藤 智章】

1. 視察概要

丹波篠山市において、観光協会を中心に六古窯をはじめとする産業観光や移住促進の取組を視察してきました。

特に、行政・観光協会・商工会の三者が連携した仕組みや、窯業における自立性の高い経営スタイルに注目した。

2. 篠山市の特徴的取組

観光協会の位置づけ

観光協会は市役所観光課・商工会と密接に連携し、事業推進において三者の協力関係が強固である。

組織間の「風通しの良さ」が事業のスピード感と柔軟性を高めている。

移住・出店の受け入れ姿勢

他地域からの移住や出店希望者には面接を実施して、地域の価値観や文化との親和性を重視しており、質の高いコミュニティ形成を目指している。

「ただ人を呼ぶ」のではなく、「地域に合う人を迎える」仕組み作りがとても良いと思いました。

窯業の経営形態

窯元を中心に、製造から販売まで自社で一貫して行う企業が多い事にビックリしました。

多治見の窯業界は当たり前に分業制で窯元が営業までするとは考えられない。

メリットとして、価格競争に巻き込まれにくい、作り手が自社ブランドに誇りを持ち、自己肯定感が高いなど、参考になる点は多いです。

「ものづくり」と「販売」の一体化が産業の安定につながっている。

3. 多治見市との比較

多治見市には「産業観光課」「観光協会（DMO）」「商工会」が存在するが、三者連携は丹波篠山市ほど緊密ではない。

多治見市の陶磁器産業は分業制が特徴。釉薬・土・絵付け・転写・窯焼き・商社と細分化されている。

技術の高度化・効率化には優れるが、全体像を見渡せる「ブランド主体」が不明確になりやすく、価格競争に直面しやすい。

4. まとめ

三者連携の強化

市役所・観光協会・商工会が「対等なパートナー」として協議・情報共有する枠組みを検討すべきだと思います。

特に観光資源と産業振興を横断する横串力施策で効果が期待できると思います。

移住・出店の質的担保

丹波篠山市のように「面接」や「地域理解の確認」を導入し、地域文化に根差した移住促進を目指すことが、定住率向上と地域コミュニティの持続につながる。

陶磁器産業のブランド力強化

分業制の強みを活かしつつ、最終製品まで責任を持つ「ブランド主体」の育成を支援するべきだと考えます。

作り手が自己肯定感を持ち続けられる仕組みづくりを検討すべきだと思います。

丹波篠山市の事例は、多治見市にとって「三者連携による横串力」「移住定住の質の担保」「一貫型ものづくりによるブランド維持」という観点でとても参考になりました

しかし、分業制の多治見だからこそ、連携をどう構築し、ブランドをどう強めるかが今後の課題だと思いました。

【吉田 企貴】

丹波篠山市は、丹波立杭焼の産地であり、江戸時代は多治見の高田焼と徳利の生産で二分するほどの地位を占めていました。こうした事からも個人的にも関心の高い陶産地でしたが、篠山市では焼き物だけではなく、まちの知名度やブランドを十全に活かして移住定住を推進していることが良く分かりました。当日は観光協会の皆様とも意見交換ができ、何よりも彼ら自身が「まちに対して自信を持っている」ことが成功の原点であると感じました。また、テレビ等の露出も多く、移住者が開いた飲食店等を目当てに観光にも好循環が起きているため、現在では、制度を活用した移住者については、ある程度「選別」を行っているとのこと。来るもの拒まずではなく、まちにとって必要な人材を集めるという姿勢には感銘を受けました。

7 写真等

※視察の場合は必須、研修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。